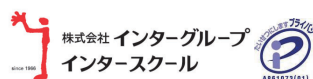


渡航受診者受け入れのためのセミナー
『医療通訳者の質の担保、育成について』
現状と課題

平成30年11月30日



先ずは会社の紹介・・・

『インターグループ？』

I “人づくり”で日本の国際化をお手伝いする会社として設立。
since 1966・・・

II 日本で最も長く続いている通訳養成機関がその第一歩。
-インタースクール

III 現場で信頼される“人材”でないと意味がないと考える会社。

人材育成は、いつもそこから・・・ since 1966

半世紀来、
巣立った人材が、プロとして国際舞台の最前線で活躍。

2

『インターグループ？』

半世紀来、日本の国際化をお手伝い。

日本の国際化を支えるプロを育てる

1966年
EXPO70 大阪万博に先駆け
同時通訳者養成機関「インターオーサカ」を創立

1972-2000年
全国8拠点で
会議通訳養成機関インタースクールを設立
(東京、京都、名古屋、広島、福岡、仙台、金沢)

日本、地域を代表する通訳者を多数輩出

2009年
日本初の
本格的なプロ医療通訳者養成コースをスタート

最先端のコミュニケーションに挑戦

“各種機械翻訳、音声翻訳プロジェクトに参画”

1983年 科学技術庁の機械翻訳プロジェクトに参加
1991年 機械翻訳(現AAMT)副会長会社として参画
2015年 総務省・多言語音声翻訳実用化に係る
グローバルコミュニケーション開発推進協会参画

世界が注目する舞台を通訳、翻訳、演出

●EXPO70 大阪万博 ●EXPO2005愛知万博
●サミット先進国首脳会議(東京、九州沖縄)
●G8外相会合(宮崎) ●APEC(大阪、横浜)
●アフリカ開発会議(TICAD IV, V)
●G7財務大臣・中央銀行総裁会合
●地球温暖化防止京都会議(COP3)
●アジア開発銀行総会 ●国連軍縮会議
●日韓首脳会合 ●ワシントン条約締結国会議
●国際捕鯨委員会(IWC)年次会合
●オリンピック冬季競技大会長野
●FIFAワールドカップサッカー2002
●IAAF世界陸上選手権(東京・大阪)
●世界柔道選手権(千葉・大阪) ●ユニバーシアード福岡
●世界体操選手権(鯖江) ●広島アジア競技大会
●内閣官房長官定例記者会見通訳(2014年～現在)

地域の国際化を仕掛ける

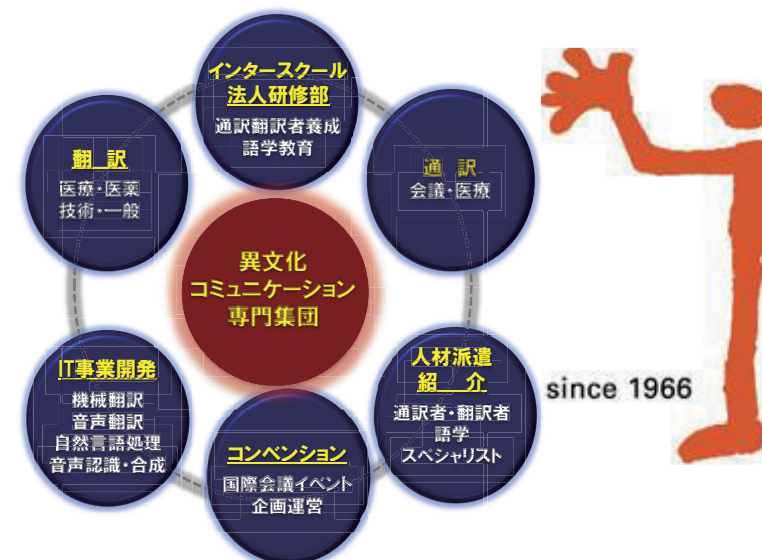
“地域の国際化を支援するプロジェクトをプロデュース”

●国際バイオテクノロジー会議・見本市(バイオジャパン)企画
●EXPO 2005 愛知万博 誘致支援
●ロボカップ国際委員会 大阪誘致支援
●ロボカップ2017名古屋誘致

3

『インターグループ？』

今では・・・
あらゆる異文化コミュニケーションで
日本の国際化のお手伝いをする会社です。



4

『インターグループ?』

会社名	株式会社インターグループ
創立	1966年9月1日
代表	代表取締役 小谷 寿平
役員・顧問	専務取締役 前田 正久 監査役 増田 良太 顧問 真砂 靖 (元財務事務次官)
業務内容	国際会議・学会・イベント企画運営 通訳 翻訳 語学スペシャリスト派遣・紹介 自然言語処理 音声情報処理 IT関連事業 通訳者・翻訳者養成 高度語学教育 法人語学研修 語学教材開発・出版
主要取引先	政府官公庁・団体、大学及び企業
社員数	170名
登録通訳者数	約1,000名
登録翻訳者数	約600名
厚生労働大臣 許可番号	労働者派遣事業許可番号: 派27-020417 有料職業紹介事業許可番号: 27-ユ-020285 東京、大阪、仙台、名古屋、広島、九州
加盟団体	アジア太平洋機械翻訳協会(AAMT)副会長(1991~)、理事(2018~) GSK(言語資源協会)理事(2003~) アジア・コンベンション・ビューロー協会(AACVB)理事(1986~1990) 東京コンベンション・ビジネス・ビューロー理事(1998~2000) 大阪コンベンション・ビューロー理事(1984~1995) 大阪商工会議所常議員 日本コンgres・コンベンション・ビューロー(JCCB) 各都市コンベンションビューロー 日本翻訳連盟

5

『いざ！医療の世界へ』

先ずは“人づくり”

- 2009年 医療通訳コース開設 -

日本の医療の国際化時代に向けて

『本格的なプロの医療通訳者の養成を目指す。』



医療通訳コース（英語・中国語）

インタースクール
通訳スキル

国際外来を持つ
医療機関
医学知識

国際外来を持つ医療機関と提携した医療通訳者養成コース

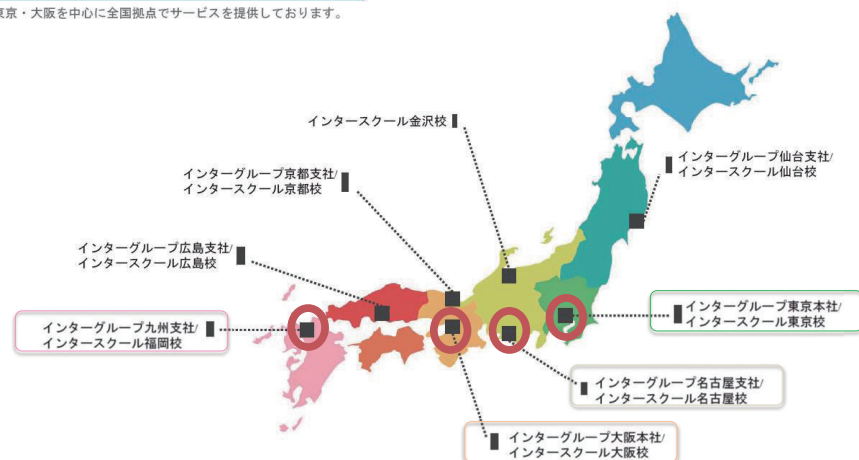
厚生労働省 『平成29年度医療通訳養成支援間接補助事業』実施団体（医療通訳養成支援団体）6

『全国で展開』

全国に広がるネットワーク

東京・大阪を中心に全国拠点でサービスを提供しております。

全国(8拠点)で展開。
医療通訳者は4拠点で養成。
(東京・大阪・名古屋・九州)



7

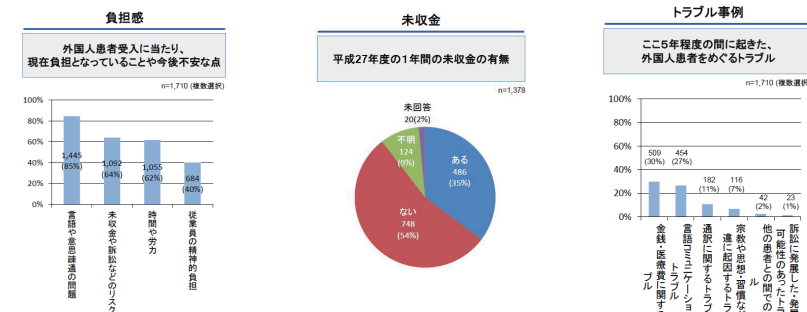
『日本の医療通訳の現状は?』

『責任重し...』

「患者の生命、健康に関わる問題を扱う」

「医療機関の経営・運営リスクに対応」

「国際社会に必要な“言葉”のインフラ」



出典:「医療機関における外国人旅行者及び在留外国人受入れ体制等の実態調査」(平成28年)より
全医療機関を調査としたものではなく、救急告示病院と観光庁が選定した「訪日外国人旅行者受入医療機関」を対象とした調査であることに留意が必要である。

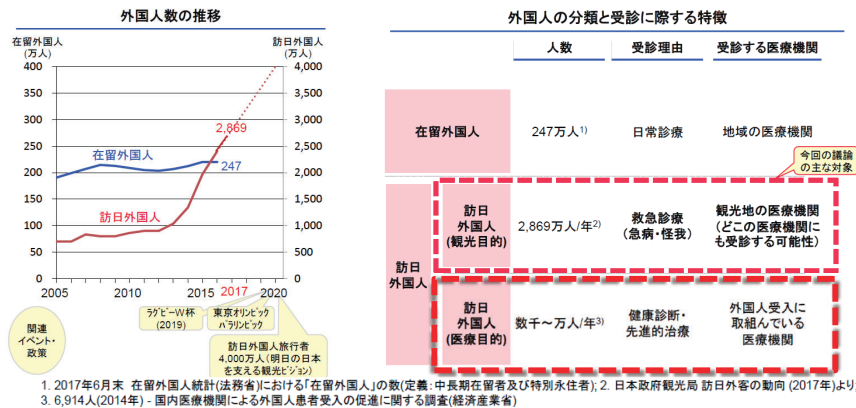
8

『日本の外国人患者受入の現状』

『外国人患者も↑』

「訪日、在留外国人は年々増加。」

「外国人労働者受入れの門戸が広がれば更に・・・。」

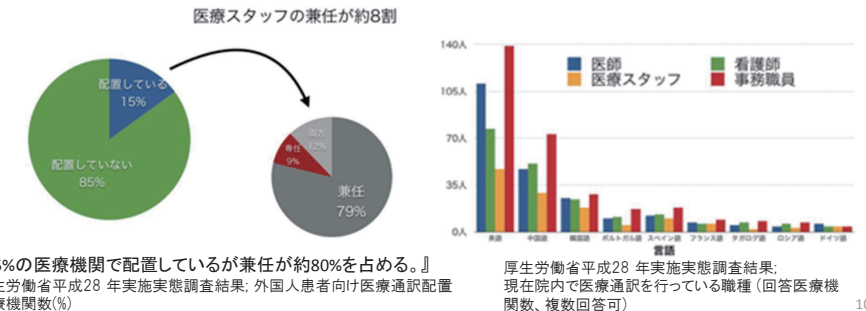


『医療通訳対応の現状は？』

『未だ不安定？』

現状では『何とか凌ぐ 1』

- いつでも必要な時に通訳を確保できない。
- 医療通訳者を配置している医療機関は“少数派”。
『普段それほど需要がないので、本格的な整備に踏み切りにくい。』
- 院内で外国語のできる医療職員が兼任。

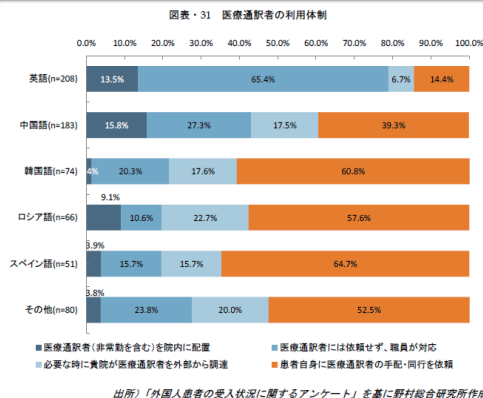


『医療通訳対応の現状は？』

『未だ不安定？』

現状では『何とか凌ぐ 2』

『英語以外の通訳者は、院内対応が厳しい。』



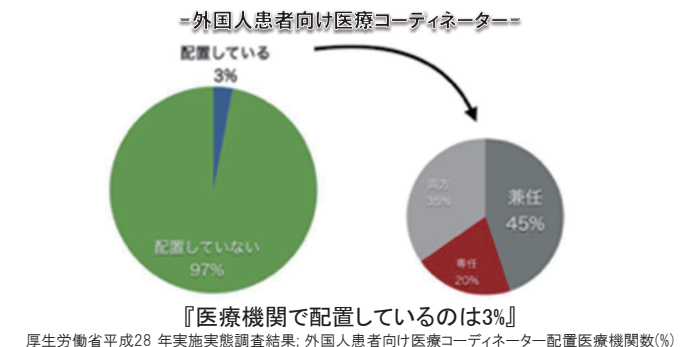
『首都圏以外は更に不安定・・・』

『医療通訳対応の現状は？』

『未だ不安定？』

現状では『何とか凌ぐ 3』

- 知人の紹介、地元のネットワークからの調達。
- 電話通訳、音声翻訳ツール、タブレット・・・。
- 医療通訳をサポートする人材の整備も不充分・・・。



『日本の医療通訳の現状は？』

『供給力不足』

医療通訳者の裾野が広がらない・・・

「専門性も高く、心労も多く、責任も重い割りに報われない」

○医療通訳者の社会的地位が確立されない。

○適切な評価基準も報酬相場も定まっていない。

○志ある方の善意に依存。

13

『医療通訳者を育てる・広げる』

『地域で養成し共有する。』

1. 医療通訳養成・共有する仕組みを“地域”でつくる

① 基礎訓練：知識(医療＋現場)×通訳スキル

② OJT：医療現場で実践

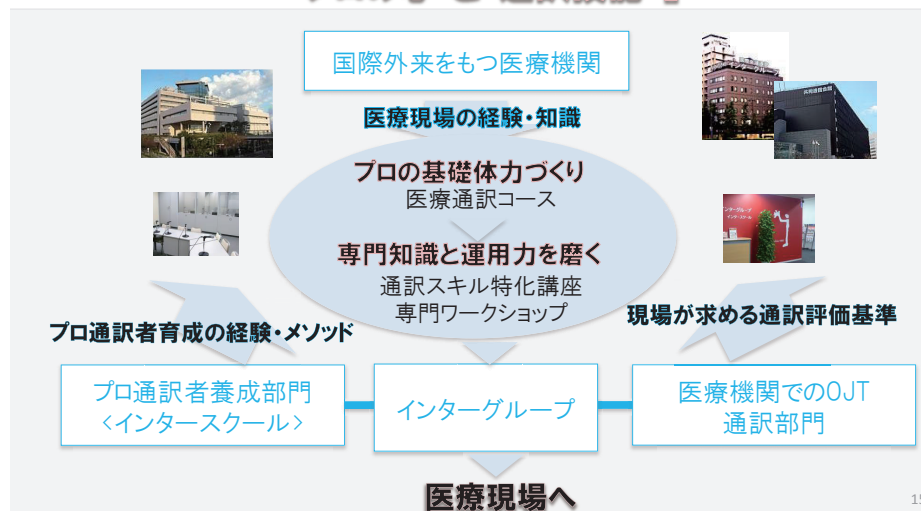
③ 評価：医療現場での評価

現場で信頼される人材を蓄積・共有。

14

『医療通訳者を育てる -体制-』

“こだわり” 『“プロの心”と“通訳技能”』



15

『医療通訳者を育てる -プロセス-』

人材育成で大切にしていること

『プロの育成に拘る。』

プロ？

『現場で信頼される人材』

何が必要？

-心・技・知-

『誠実 × 知識 × 技能』の鍛錬。

誠実 『使命に拘る。』

技能 『ぶれない。』

知識 『運用できる。』

評価Ⅰ

そして・・・

『現場で磨く』

『グレードアップ』

評価Ⅱ

16

17

18

19

20

事例：『医療通訳者を育てる』

そこで…

取り組み

プロとしての登用につながる
『医療通訳者の現場力を磨き評価される』
仕組みづくり

医療機関のご協力による医療実地通訳者の実地訓練と評価

医療通訳コース修了生を医療機関でOJT

- 通訳会社としての通訳技能評価
- 医療現場としての評価
- 通訳訓練を通じた基礎体力の評価
- 医療知識の運用力の評価

21

事例：『医療通訳者を育てる・広げる』

医療機関での通訳OJT

『都内の医療機関で医療通訳コースの修了生・受講生を受入登用』

- 業 務：診療、受付通訳、院内翻訳等
- 言 語：中国語、英語
- 実施期間：2015年～

『学べる事は数知れず…』

医療機関様

- 医療通訳者の活用方法
- 医療通訳者のQC方法
- 個人・機密情報機密管理
- 使える通訳人材データ

医療通訳者・弊社

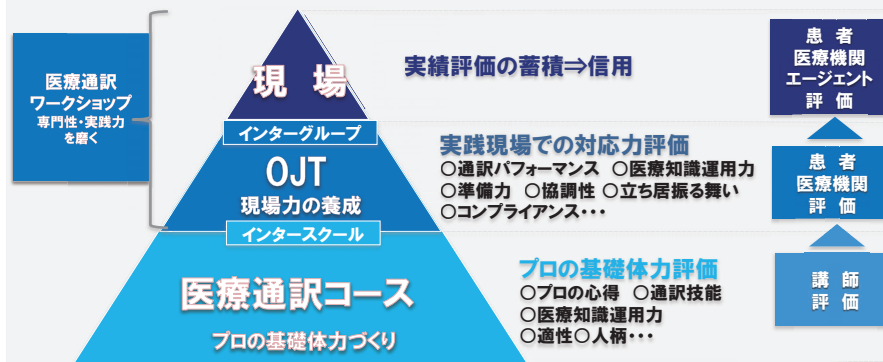
- 患者対応 ○医師・看護師との連携
- 医療知識 ○実践通訳スキル
- 医療オペレーションの流れ
- 医療現場で守るべきルール
- 個人・機密情報の取り扱い

22

今後の課題：『医療通訳者を育てる』

課題は…

医療通訳者の実力の『見える化』の整備



“医療通訳者”の現場力養成と評価機会の拡充
評価と報酬の連動

23

『医療通訳+αの受入れ体制を整える』

医療通訳+αのお手伝い

『ゴールは、病院全体で、外国人患者の受入れる体制づくり』



24